



「忙しい日本社会に 従うか、それとも」

西部中会 宝塚教会牧師
大西 良嗣

昨年12月に南アフリカから2年ぶりに帰国しました。日本に帰って来て特に感じるのは、とにかく忙しいということです。歩いている人も、電車も、教会の中までもがせわしない感じがします。南アフリカの教会では、日曜日に小会や委員会はありません。私たちが出席していた教会では、朝9時から礼拝があり、その後に行われる日曜学校を含めても、11時には帰宅します。牧師も教会から離れた自宅に帰り、家族との時間を過ごします。夕拝がある場合には再び出かけて行くという具合です。私自身も2年間そのように日曜日を過ごさせていただく中で、「キリスト教安息日」というのは、こういうことであるのかもしれないと考えさせられました。

南アフリカでは、仕事をしている方でも平日4時には職場を出られるので、小会などを平日に開催することが可能です。また教会に事務職員がいますので、教会員や牧師が行う事務作業も軽減されています。日本社会や教会の現状を考えると、日本の教会が南アフリカの教会と同じように日曜日を過ごすことは無理な話であるのかもしれませんが。

しかし、十戒の第四戒には「安息日を守ってこれを聖別せよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、あなたの町の中に寄留する人々も同様である。」とあります。やはり、「いかなる仕事もしてはならない」というのが安息日の原則です。さらに、申命記に記された十戒には「そうすれば、あなたの男女の奴隷もあなたと同じように休むことができる」と続きます。その家の主人が休むのは、男女の奴隷を

含む全員が休むことができるようにするためでもあります。教会のことで考えるならば、まずは牧師が休まなければ、他の人たちが安息日として日曜日を過ごすことはできないということでしょう。

日本社会は、ますます人を休ませない傾向を強めているようです。「高度プロフェッショナル制度」を導入することが国会で採決されています。娘が中学校からもらって来た『学年通信』には「期末テストが終われば、夏休みまでは4週間です。授業もあまり進まないこの時期に、しっかり復習しておきましょう。頑張れば頑張るほど、前向きな気持ちで夏休みを楽しめます。無為に過ごせば、虚しさしか残りませんよ!」とあります。期末テストが終わったので、少し休んでリラックスして過ごしましょうとは言ってくれないようです。休暇を取らずに戦わせ続けることで、兵士を精神的にも肉体的にも消耗させてしまうのは、旧日本軍のあり方でもありました(『日本軍兵士—アジア・太平洋戦争の現実』吉田裕著)。このような社会の中では、勤勉さよりもむしろ積極的に休むことが、世の光としての役割を果たすことになるのかもしれませんが。

牧師が疲労とストレスを抱えていることと、働きを続けることができなくなる牧師が続出していることは無関係ではないように思えてなりません。牧師たちは、休むことを主に従う積極的な意味を持つものとして休むべきではありませんか?休むことに否定的な社会的風潮に流されないようにしましょう。礼拝の時以外は、できるだけリラックスして日曜日を過ごしましょう。そのようにして、教会役員も教会員もできるだけ安息日を味わえるように試みて行きましょう。

卒業生挨拶



本科生

長谷部 真

(はせべ まこと)

西部中会 堺みくに教会

主の御名を賛美します。この度、神戸改革派神学校での2年間の学びを終えられた恵みを感謝いたします。振り返りますと、私の学びと訓練の背後には、多くの教会の兄弟姉妹の温かい祈りと、尊い支えがありました。召しを覚えてから10年ほどの間、東北学院大学、アメリカの改革長老神学校、そして神戸改革派神学校での学び、すべての歩みに神様の支えと導きがありました。神様から与えられた恵みの中から、二つをお分かちしたいと思えます。

与えられた恵みの一つは、「キリストの交わりに憩う」大切さです。これまでの学びの期間、重圧を感じ、逃れたいと思うことが何度かありました。しかし聖書の御言葉、とりわけマタイによる福音書11章28～30節のイエス様の招きの言葉と、教

会生活と神学校生活を通して、キリストの平安を受け、福音宣教の学びと訓練に励むことができました。頂いたもう一つの恵みは、「祈りの交わり」です。神学校の生活は祈禱会から始まり、授業やプライベートな場面など、様々な場面で祈りあってきました。ある方から「祈りの交わりからは離れてはいけない」と励まされたことがありました。その励ましから、折が良くても悪くても、祈りを通して、キリストの平安を受けてきました。神学校生活を振り返りますと、失敗や困難を覚えることも多々ありました。しかしすべては本当に恵みに溢れたものでした。これまで関わってくださった多くの兄弟姉妹の励ましと支え、全てを導いてくださった主なる神様に、心から感謝いたします。

卒業後は西部中会の堺みくに教会へと遣わされます。困難も多いかもしれませんが、キリストに委ねた道は喜びと感謝にあふれていると確信します。全てを導かれる主に感謝すると共に、生きるキリストを証する者として、信じつつ祈りつつ、感謝と喜びをもって、委ねた道を歩んでいきたいと願います。祈りに覚えて頂ければ幸いです。主に在りて

この度神学校を卒業することが許され、伝道者としての働きを始めることができますことを心から感謝いたします。ここでは語りつくせないほど多くの方々の祈りや交わりに支えられて、この時を迎えることができました。それは神学生として歩んだ3年3か月の間だけにとどまりません。私が生まれてから今に至るまで、多くの支えをいただき今の私があります。そしてその背後に、私が生まれる前

本科生

三輪 誠

(みわ まこと)

中部中会 浜松伝道所



から注がれ続けた神様の愛と憐みがあったことを
思います。神学校を卒業するにあたって、これか
らなそうとしている私のつたない働きの上にも神様
の愛と憐みがあることを信じつつ、これに信頼して
新たな道を歩み始めたいと願っています。

私の神学校生活は、大きな悲しみと大きな喜び
が同居したものでありました。入学して約半年後に、
父が主の御許へと召されていきました。その約半
年後に、息子が与えられました。悲しみの涙とう
れし涙をどちらも流しながら、神学生としての期間
を過ごしてきました。我々の地上の歩みは、世に
産み落とされた生の時と、御許へ召される死の時
の間にあります。このことを、父の死と息子の誕
生という二つの出来事から深く感じさせられまし

た。聖書は生と死の間にある地上での歩みにおけ
る幸いも語りますが、それと共に私たちが世に生
をうける前から主の愛が注がれていること、世を
去った後にもキリストの希望があることをも示して
います。今は世の多くの人々が生きることに困難を
覚え、今この瞬間を生きることに精一杯になって
いるように思います。そのような人々に、生と死
を超えたキリストの愛と希望があることを、それ故
に地上の歩みにも大きな幸いがあることを示すこ
とのできる伝道者を目指してまいりたいと思います。

私ははまだ欠け多き者です。主が私を働き手と
して整えてくださるように、また私と私の家族の上
に主の憐みと導きがあるように、お祈りくださいま
すようお願いいたします。



別科生

金(キム) エノク

四国中会 徳島西部伝道所

主の御名を讃美いたします。神戸改革派神学校
の第66回卒業生の金エノクと申します。私は20
04年、東京で留学をしている時に日本宣教の召
命を神さまからいただきました。その時から日本
宣教師として日本へ来るために私は多くの訓練を受
けました。そして、2015年4月に別科生として
神戸改革派神学校へ入学しました。9年間の準備
を通して、やっと日本の地を踏んだ時には、熱い
熱情の心がいっぱいでした。しかし、日本宣教は
自分の熱情と熱心でできるものではありませんで
した。神様は私一人の賜物だけで宣教を行う方では
ありませんでした。私は神学校で学ぶ3年3か月の
間、神様の宣教を見ることができました。主は、
私に多くの仲間を与えてくださり、助け手を送っ
てくださいました。派遣神学生として出会った、千里

摂理教会、伊丹教会、神港教会の信徒たちは私
のために祈ってくださる味方になりました。そして、
夏期伝道として行った、高松東教会と横浜教会の
皆様は、私が1か月間教会で安らかに生活するこ
とができるように多くの準備をしてくださり、初め
ての牧会が守られるように、配慮してくださいまし
た。心から感謝いたします。そして、外国人とし
て難しい神学を勉強することができたこと、日本
の教派での生活が今まで守られたことは、神学校
の先生方々の助けと導きがあったからだと思いま
す。女性神学生が自分の力を発揮することができ
るように、応援してくださった先生方に心から感謝
を捧げます。本当にありがとうございました。

私は神戸改革派神学校へ来て、多くのことをい
ただき、多くの訓練を受けました。それはこれか
ら徳島西部伝道所で働きをするための力になると
思います。日本の宣教はとても難しいことです。
しかし、3年3か月の間、私を導いてくださった神
様の御手を信じて、私の宣教ではなく、神様の宣
教をしていきたいと思います。3年3か月の間、本
当にありがとうございました。これからも宜しくお
願いいたします。

別科生

金 慧眞

(キム ヘジン)

西部中会 板宿教会
(協力宣教師)



神戸改革派神学校で豊かな学びを頂き、無事に卒業まで至ったのは、神様の恵みと改革派教会の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。神学校では、神学的な思考を学ぶと同時に人に仕えることや神様との深い交わりがありました。神学的な思考とは、真理を正しく理解するガイドラインを学び、その中で信仰を体系化し、御言葉を正しく伝える力でした。聖書を深めると同時にキリスト教の歴史や牧会カウンセリングなど実践的な学びもありましたので、私自身の信仰の成長と共に働き方にも大変有益でした。

通常派遣先の教会や夏期伝道、諸教会での御言葉の奉仕を通して、多くの方々と交わりを持つことができたのはとても貴重な経験でした。外国人

が現地教会でこのような素晴らしい経験ができるのはなかなかないことだと思います。色んな教会で御言葉を分かち合い、主の恵みを求めて生きるお姿を横で見ることができたのはとても嬉しいことです。

神学校でいる間には、主に依り頼むことが一番大きな訓練でした。自分の力ではできないことが分かって神様に頼って行うこと、または、自分の力でできそうなことがあっても、それも主の力に依り頼み、主からくる力によって全うすることです。この訓練はこれからもずっと続くものとして、私は死んで、イエス・キリストだけが生きる歩みになることを心より願っています。共に祈る恵みや共に聖書を読んで分かち合うことなど、共にする大切さも教えていただきました。

卒業後でも日本キリスト改革派板宿教会で仕える恵みが許され、心より感謝いたします。キリストの中で一つの兄弟姉妹として共に祈り合い、支え合う恵みをもって仕えていきたいと思います。また、主を愛し、主を畏れる心をもって教会に仕え学んでいきたいと思います。恵み深い神様がこの日本で成し遂げられる御業を共に見る日を心より望みます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

岐阜の地から神戸改革派神学校に導かれ、改革派教会の神学と教会生活に体当たりで取り組みました。神学校の訓練で特筆すべきことは、やはり全寮制であることだと思っています。他教派の神学校で学び教会奉仕をしてきた者ですが、全寮制の神学校で学ぶのは初めてのことでした。寮生活では自分自身が表れると聞いてきました。育ちも学力も経済力も経験も違う信仰の仲間たちが24時間365日同じ学び舎で過ごすのです。それぞれに与えられた賜物も違えば奉仕内容も派遣教会も違います。そうであっても、召してくださったのは同じ主なのです。この点は教会における多様性を学ぶのにとっても良い機会であり、教会に仕える者が学ばなければならないことでした。とりわけ、私にはこの点における訓練が必要であったのだと痛感

短期生

木村 英樹

(きむら ひでき)



しています。

本科生で学び始めましたが短期課程卒業の第1号として卒業することとなりました。これも神様から私に与えられたことであると受け留めています。この2年間の神学校での訓練を振り返るとき、一つの御言葉が心に残っています。詩編147編の

御言葉です。「主は馬の勇ましさを喜ばれるのではなく、人の足の速さを望まれるのではない。主が望まれるのは主を畏れる人、主の慈しみを待ち望む人」これは在学中に限らず、生涯学び続けることでしよう。

ご指導して下さった先生方、神学校の行事や生活を支えて下さった職員の方々、共に机を並べて学んだ同級生たち、教会奉仕と教会生活のため

に受け入れて下さった派遣教会（通年派遣、夏期伝道）の皆様、送り出してくださった関キリスト教会の皆様、祈り支えて下さった諸教会の皆様、そして、共に歩んできた妻に、心から感謝を申し上げます。私は今既に、神戸の地で再就職し、新たな住まい、新たな教会生活が与えられています。神戸での教会生活の第2章が始まっています。全てを導かれる神さまに感謝し、神さまに依り頼みつつ仕えます。



特別研究生

郭 宝慶

(カク ポーキョン)

ヨハン西宮キリスト教会

ハレルヤ!!

神戸改革派神学校での学びはあっという間に終わったと言う感じであります。2016年9月の聴講から始まり、いつのまにか卒業を迎えました。2009年、誰もいない西宮にマンションを借りて、初代教会のような教会を夢見ながら開拓し始めました。約10年近くなってこのままではだめだと危機感を感じ、主なる神をより深く、広く、高く知って、主の御胸をもう一度悟る時間が欲しくて入学を決心するようになりました。

神戸改革派神学校の授業は1週間に2日間でした。この時間が主なる神に対しての豊かな学びになるにつれ、主なる神との交わりが深く出来ました。また、神学校は働き先を離れ気晴らしが出来た憩いの場所でもありました。愛する先生方の授業と素晴らしい神学生たちと共に学びと交わりを通して、沢山チャレンジを受けました。チャレンジの一つはお勉強の姿かな…お勉強が嫌いな私には…神学校の学びを通して感謝することは数え切れないほどありますが、まず、本一冊をじっくり読んで自

分のものにしようとする習慣がついたことです。二番目は、説教の準備に対することです。釈義と説教の授業を通して自分がいくら怠っていたのか悔い改めるようになり、学んだことをアレンジしようとチャレンジしている自分がいて感謝しています。

最後は論文を通して学んだことです。論文を書くために読んだ本を通して教会の本質は宣教であるということをもう一度確かめたことです。一人を救うために開拓を始め、その人を御言葉を通して教育し、イエス・キリストの弟子として立てようとするヨハン西宮キリスト教会の方向性が聖書的であり、今までの働きが正しかったという確信が与えられて感謝でした。ご指導の先生のお陰で論文らしく完成されたことにも感謝の心で一杯です。

これからの課題は、主の恵みで働いているヨハン西宮キリスト教会で学んだことを生かすことです。イエス・キリストの十字架と復活を述べ伝え、聖書を教え、イエス・キリストの弟子を立てます。ヨハン西宮キリスト教会が宣教する教会、主が愛し、喜ばれる教会になるように祈りながら歩むことです。この様な教会になるようにお祈りを願います。私にとって神戸改革派神学校はかけがえないところです。



特別研究生

佐野 直史

(さの なおし)

東関東中会 銚子栄光教会

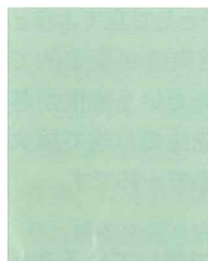


教会で受けた恵みを携えて、教会の現場で主の働きに仕えて参りたいと思います。

私はこの7月より、千葉県銚子市にありますが東関東中会所属の銚子栄光教会で牧師としてお仕えております。銚子栄光教会は、礼拝出席が20-25名ほどの教会で、特徴としては併設されている認可保育園「萌保育園」があります。私はこれから牧師としての働きを通して、また「萌保育園」での働きを通して、神様と教会、そして地域にお仕えする予定です。まだ今の自分に何ができるのかわかりませんが、神様の導きに従って、主の御国の宣教のために仕えて参りたいと思っております。これからも続けてお祈りに覚えてくだされば幸いです。また、機会がありましたら銚子の方までぜひお越しください。歓迎いたします。

神戸改革派神学校を祈り支えてくださっているすべての方々に、主の祝福と恵みが豊かにありますように祈り願います。主にありて。

主の御名を賛美いたします。ただ主の御恵みによって、2018年6月26日(火)に神戸改革派神学校の特別研究課程を卒業いたしました。全国の諸教会・伝道所の皆様のお祈りとお支えによって、私の歩みが守られましたことを心より感謝申し上げます。私は本科課程を含めて4年3ヶ月の期間、神学校で学ばせていただきました。本当に長い時間をかけて、神様に仕える者として、また一人の人間として、成長させていただいたことを神様に感謝しております。神学校での学びと交わりの時は、私の人生の中でかけがえのないものとなりました。これからは神学校とお世話になった多くの



入学生挨拶

本科課程

伊藤 築志

(いとう つくし)

東部中会 田無教会



主の御名を賛美いたします。伊藤と申します。改革派四日市教会に育ち、進学・転勤により筑波みことば・仙台カナン・綱島・春日井・そして田無の各改革派教会へ現陪会員として導かれました。これまでの私の歩みは、主を信じてい

ると言えど他の事に気を取られ、神様を第一とした生き方から離れたものでした。しかしある日、祈りの中で、人生の重心を神様のところへ戻す事、そして伝道者・牧師になる事への召しを与えられました。私自身が一番驚いている事ですが、主の導きのうちに、その祈りから8カ月後の入学が許されました。祈りも学びも本当に足りない者ですが、神様に与えられたこの人生を、これまで経験させていただいた諸々への感謝・反省とともに、今できる精一杯の事でおさげしたい。厳しい現実に戻込みする気持ちもありますが、御心ならば、神様がそれに耐えられるよう、ちゃんと道を備えていてくださる事を信じて歩んで参りたいと願っています。

本科課程

寺川 和宏

(てらかわ かずひろ)

西部中会 神港教会



主の御名を讃美いたします。西部中会の神港教会出身の寺川和宏です。主の全き憐みと、皆さまの祈りに支えられ神戸改革派神学校の4年制コースに入学が許され感謝致します。

私の献身のきっかけは日本伝道会議の青年大会で、ドラムの奉仕を依頼され、奉仕を終え青年への説教を聞いていた時、「hi-b-a」の鈴木雅也先生が「この中で献身を志したいと思う人は立って下さい。」と言われましたが、私はその時、立てませんでした。周りの青年が次々と立つ中、立てない自分に対する信仰の無さを神様から突き付けられ、「悔い改めたい!」と歩んできた先に、この改革派神学校の道が示されました。本当に欠け多く小さな者にも関わらず、神港教会の祈祷会で本当に皆さんに熱心に祈って頂き感謝に絶えません。神様に示されたこの道を歩み切ることが出来るように日々、祈り感謝を忘れず歩みたいです。

本科課程

堂所 大嗣

(どうしょ だいじ)

中部中会 津島教会



私は子供の頃、聖書の登場人物の中では強くて賢くて見た目も良いヨセフやダビデのような人達が好きでした。ですが大人になるにつれ、彼らのような優れた人物とは真逆の、むしろ弱くて欠けの多い人達が好きになっていきました。特にルカ福音書に登場する取税人ザアカイは、彼の心の傷や孤独を想像できる気がして、そんな彼がただ一度のイエス様との出会いによって、全く新しい人間に変えられた姿を見る時「私のような者でもイエス様に出会えば新しく変えられる」という希望を感じさせてくれるのが大好きです。イエス様がザアカイに「降りてきなさい」と声を掛けられた時、彼はすぐに木から降りて従いました。同じように、もしイエス様が私のような者の所にも来て声を掛けてくださるのなら、私もザアカイのようにその御声に従う者でありたいと思いました。神学校での四年間の学びを通してザアカイのように、日々において新しい者にされていきたいと願っています。



本科課程

野々山 芳和

(ののやま よしかず)

日本同盟基督教団
蛭池聖書教会

主の御名を賛美いたします。今春より本科課程で学んでおります野々山と申します。私は改革派外部からの入学ですが、入学以来、この神学校で学ぶ機会が与えられたことに感謝する日々を過ごしています。というのも、これまで聞いたり学んで

はいても断片的であったことが整理され、繋がっていく経験をさせていただいているからです。プロテスタントに属する私の教会も、宗教改革の伝統を受け継ぐ改革派教会からたくさんの恩恵を受けてきたのだと実感しています。良き同級生たち、先輩方、教職員の方々にも恵まれました。

社会に出た頃、私は信仰の喜びを見失ない教会を離れてしまいました。ですから恵みによって教会へ戻された今は、主とともに歩む信仰者の喜びについて興味を持っています。そのためにみことば全体をしっかりと学びたいと思いました。将来の働きに備え、神様に感謝しつつ学んでいきたいと考えています。



本科課程

山口 弘

(やまぐち ひろむ)

西部中会 東広島伝道所

まず、入学1週間目に起きた妻の緊急手術その後の長期治療のために、たくさんのお祈り、お支えをいただきましたことを心から感謝いたします。校報が発行されている頃には、生かされて病院を出て、妻の実家で静養中かと思えます。家族にとって、とても苦しい時間でした。しかし、困難を通して神様は、週末、妻の看病をしつつ、田無教会にて宿泊、礼拝出席できる道を開いてくださるなど、思いもかけない神学生にとってこれ以上ない訓練、たくさんの恵み、気づきを与えてくださいました。神学校にはたくさんの優れた先生方がいらっしゃいますが、神様は最もすぐれた私の生きた先生だと実感しています。30年ほど前に起こされた牧師への思いを、神様は様々なことを通して熟成され、54歳で神学校に入学することをよしとしてくださいました。こんなおじさん、神様の導きと皆様のお祈りなしには前に進めません。引き続き私たち家族のためお祈りいただければ感謝です。

短期課程

光後 輝久

(こうご てるひさ)

東関東中会 湖北台教会



主の御名を賛美いたします。一昨年の9月に42年余り勤務した会社を退職しました。最後の20年は単身赴任で、全国各地を転々としていましたが、礼拝出席は一割程度とあまり教会には行くことが出来ませんでした。仕事を終えたら、その間他住会員であった母教会の湖北台教会に帰るつもりでしたが、母教会に帰って教会の奉仕をするには、あまりにも聖書について知らない自分に気づかされ、一昨年の10月から改革派神学校の聴講生として学ぶ様になりました。昨年の夏の集中講義でヘブライ語を学んだ頃から気持ちの中に変化が生じてきて、秋頃に心の整理をすると神様の導きを強く感じ、一連の流れを考えた時に神様の導きを確信しました。

4月に入学して一学期を終えましたが、ついて行くのにアップアップの状態です。これからも、神様のめぐみと支えを祈りながら進んでまいります。



短期課程

柴田 朋子
(しばた ともこ)

東北中会 仙台カナン教会

十代の頃から、信仰を持ちたいと願いながらもなかなか決心がつかず、教会に通ったり離れたたりすることを何度も繰り返していました。2015年春、仕事で仙台に転居したのを機に仙台カナン教会に通い始め、2016年7月に受洗しました。受洗と前後して教会で働きたいという思いを与えられ、それは自分でも突飛な考えのように思えましたが、道が示されることを願い、祈って来ました。この春、7名の同期生と共に神学校への入学を許され、祈りに満ちた神学校での生活が始まりました。一学期の学びが守られ、無事に終えられたことを主に感謝いたします。

未信者だった頃、街で教会の前を通りかかると、ここにはこの破れた世界とそこに生きる人々のために祈っている人がいるのだと思い、慰められたものでした。世界のために祈る教会の存在自体が、地域の人々に対するメッセージであると思います。祈る教会に仕え、福音を伝える者になりたいと願っています。



短期課程

山口 耕平
(やまぐち こうへい)

西部中会 西谷伝道所

短期生として学びを許されました山口耕平です。私には脳血管性認知症を患う父がいます。昨年2月に母が亡くなったことから兄夫婦と交代で実家に住み、家事を担いながら学んでいます。父のこと、生活のこと、入学するまで本当に様々な不安が心をよぎりました。しかし先生方、共に学ぶ神学生、送り出してくださった西谷伝道所と伊丹教会の皆さまの祈り、そして家族の働きを主なる神さまは覚えてくださいました。認知という病によって祈る言葉を失った父ですが、祈りそのものは失われません。つえがなくては歩行もままならない状態であった父は休みなく共に礼拝に参加できるころまで強められています。W. モーア先生、無牧の間ご奉仕くださった沢山の先生方、そして赤石先生、金田先生を通して西谷で語り、私を導き続けてくださる神さまが神学校での学びを通してみ言葉にある豊かな働きへと導いてくださるよう主の憐れみとみ恵みに委ねつつ、祈り求めています。

神学校特別公開講義

「宣教の課題としての インカルチュレーション」

講師：藤井和弘先生
(日本キリスト教会南浦和教会牧師、
日本キリスト教会神学校校長、実践神学講師)
日時：9月28日(金)
午前8時30分～午後3時
会場：本校チャペル

「改革派神学が 信仰復興運動に問うてきたこと 問われてきたこと」

講師：藤本 満先生
(インマヌエル高津教会牧師)
日時：① 10月18日(木)
午前8時30分～午後5時
② 10月19日(金)
午前8時30分～午後3時30分
会場：本校チャペル



特別講義

「ウェストミンスター研究の勧め」



5月22日、23日、神学校の学生の先輩であられ、ウェストミンスター研究の第一人者であられる松谷先生から、①スコットランド教会史、②ウェストミンスター神学者会議、③ウェストミンスター信仰基準、④ピューリタニズム、⑤カルヴァン主義の展開、にそれぞれ関わる著書と訳書を通して、五つの講義を戴きました。

「研究者ではなく伝道者として召命された」と仰る先生が、さまざまな困難の中、主のお導きによって奥様とお二人で歩いてこられた道程から、本気で聖書と神学に取り組み、その中で一筋にウェストミンスター研究に打ち込んでこられた信仰の姿勢とその足跡から、多くのことを学ばせていただきました。その中で心に残った二つのことを記します。

「牧師は御言葉によって羊を太らせ、肥えた羊を神さまに献げる。まがいものによる栄養の偏った太らせ方ではなく、聖書と神学の学びが祈りをもってなされることにより、ただ御言葉によって羊を養うことができる」とのお言葉に、羊を養う務め

に就こうとする者として、あるいは養われる群れの羊として、益々祈りつつ備える大切さを思いました。

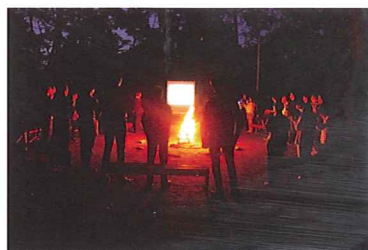
「日本キリスト改革派教会では、公共神学はまだ出ていない」。わたしには、この言葉の正否を判断することはできませんが、これはわたしにとって、大きなチャレンジとなりました。キリスト倫理と公共神学について、学を深め広め高めたいと強く思われました。

今回の特別講演会は、松谷先生がウェストミンスター研究に関わる蔵書を神学校の図書館に寄贈してくださったことから実現しました。講演後に図書館で、蔵書の説明もいただきました。この素晴らしい書籍の数々を活用し、神戸改革派神学校がウェストミンスター信条保管庫になるのではなく、生ける真の神さまの生きた神学を展開していくことができるよう、励みたいと存じます。

2年生 長谷川はるひ



神学校リトリート



5月24日、25日に関西学院大学千刈キャンパスで神学校リトリートが行われました。今年は、神戸改革派神学校を卒業され、日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会の朝岡勝先生を招いて主題テーマ「教会に生きる喜び—実践的教会論」を2日間にわたり講演をしていただきました。

1日目は、「教会に生かされる喜び」と題して、先生のこれまでの歩みを振り返りながら東神大での学び、卒業後の岡山での奉仕の様子のこと。牧会、宣教の働きの中で、心の中に葛藤が生まれ、恩師からの「説教に神への畏れが感じられない」という言葉で、再び学ぶことを決意されたこと。そして、神学校での三年半の学びについて講演をしていただきました。

2日目は、「教会に仕える喜び」と題して、改革派神学校を卒業し、徳丸町キリスト教会に赴任してから現在に至るまでの講演をしていただきました。赴任当時、礼拝出席者が減少し混乱していた教会を立て直していくこと。その時に大事にしたこととしてあげていたのは、礼拝に集中す

ること、掃除と片付け、教会のみなさんに「イエス・キリストを信じて生きる世界は、自由と喜びの世界だ」と言い続けたこと、でした。朝岡先生が、教会とイエス様にしっかりと向き合っ取り組んできたことが、とてもよく伝わってきました。私たち神学生にとって、将来の牧会、伝道の働きに活かしやすい内容にとっても刺激を受けた2日間の講演でした。

そして、リトリート恒例の新入生の証を行いました。8名の新入生の証は、神学校へ行く決心の重みと、召しに対する畏れと喜びと、そして、なにより神様の確かな導きを感じました。新入生は、講演や証を通して、自分の召しについて向き合い、改めて感じたことが多くあったのではないかと思います。

神学生同士の交わりと献身の志が深められたこの2日間のリトリートでした。このような時を備えて下さった神様に感謝を致します。

2年生 石川 亮

2018年神学校行事（抜粋）



1月5日（金）
第3学期開講講演
講師：袴田康裕教授

2月9日（金）
全校祈祷日
講師：スパーク先生



4月6日（金）
第69回入学式

4月6日（金）
第1学期開講講演会
講師：坂井純人先生



5月12日/19日/26日/6月2日
信徒神学講座「旧約学」
講師大西良嗣先生、赤石純也先生

5月24日（木）～25日（金）
神学校リトリート
講師：朝岡勝先生



5月29日（火）
日韓宣教研究所セミナー

6月26日（火）
第66回卒業式



受講料1日：800円

2018年「秋講座」

「ディアコニアとは？」

神戸改革派神学校では、年2回「信徒神学講座」を開講しています。これは、聖書や神学を学びたいと願っている多くの信徒の方々にその機会を提供するものです。是非、奮ってご参加ください。多くの方々の参加を心からお待ちしています。

・講師：ステファン・ファン
デア・ヴァット 教授

・時間：13時30分～16時

・場所：園田教会

・講師：相馬伸郎 先生
(名古屋岩の上教会牧師)

・時間：13時30分～16時

・場所：神港教会

1. 9/22 (土)

「ディアコニアの歴史的な展開」

2. 9/29 (土)

「ディアコニアの現状：
神学的な課題と実践」

3. 10/6 (土)

「教会の本質をなす
ディアコニアによる教会形成」

4. 10/13 (土)

「執事の任務及び
被災地と政治的ディアコニアを巡って」

2019年「春講座」 〈近現代教会史〉

- ・日程：5月11日、18日(いずれも土曜日)
- ・講師：袴田康裕 教授(歴史神学)

神戸改革派神学校

〒651-1306

神戸市北区菖蒲が丘3-1-3

TEL：078-952-2266

FAX：078-952-2165

e-mail：rcj-kobe2266@nifty.com

http://krts.net



神戸改革派神学校

2019年度新入生募集

4年制コースと2年制コースの二つがあります。高い専門性と実践性を備えた神学教育をめざします。

4年制コース

教職養成課程です。ゆとりある充実した授業とともに実践面を強化します。男女とも。

2年制コース

教会に献身する信徒のためのコース！信徒説教者・伝道者など教会献身者の神学教育のために。

*4年制への編入も可能

特別研究科・聴講制度あり

- 願書締め切り：2019年1月10日(木)
- 入学試験：2019年2月12日(火)



まずは
お問い合わせください。

www.krts.net

「神戸改革派神学校」で検索

〒651-1306

神戸市北区菖蒲が丘3-1-3

神戸改革派神学校

TEL : 078-952-2266

FAX : 078-952-2165

E-MAIL : rcj-kobe2266@nifty.com

